

連携中枢都市圏における広域連携

福山市企画財政局企画政策部
企画政策課長 中村 啓悟

1 備後圏域の概要 (位置、歴史、取り巻く社会環境の変化 など)

2 備後圏域の連携中枢都市圏の概要

(連携中枢都市の役割、ビジョンの推進体制 など)

3 備後圏域連携事業 (具体的取組)

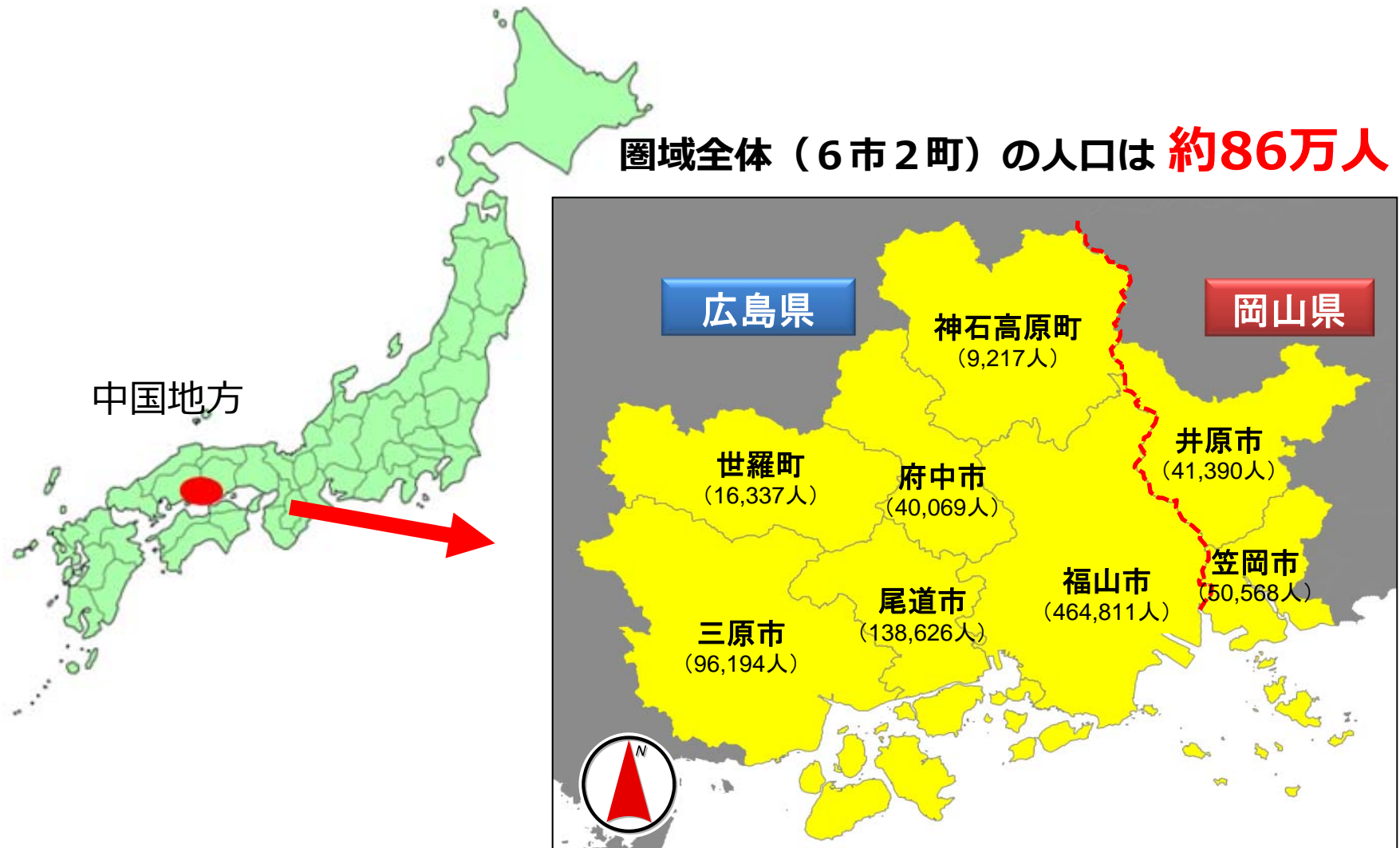
(各分野の連携事業 など)

4 今後について

備後圏域の概要

位置、歴史、取り巻く社会環境の変化 など

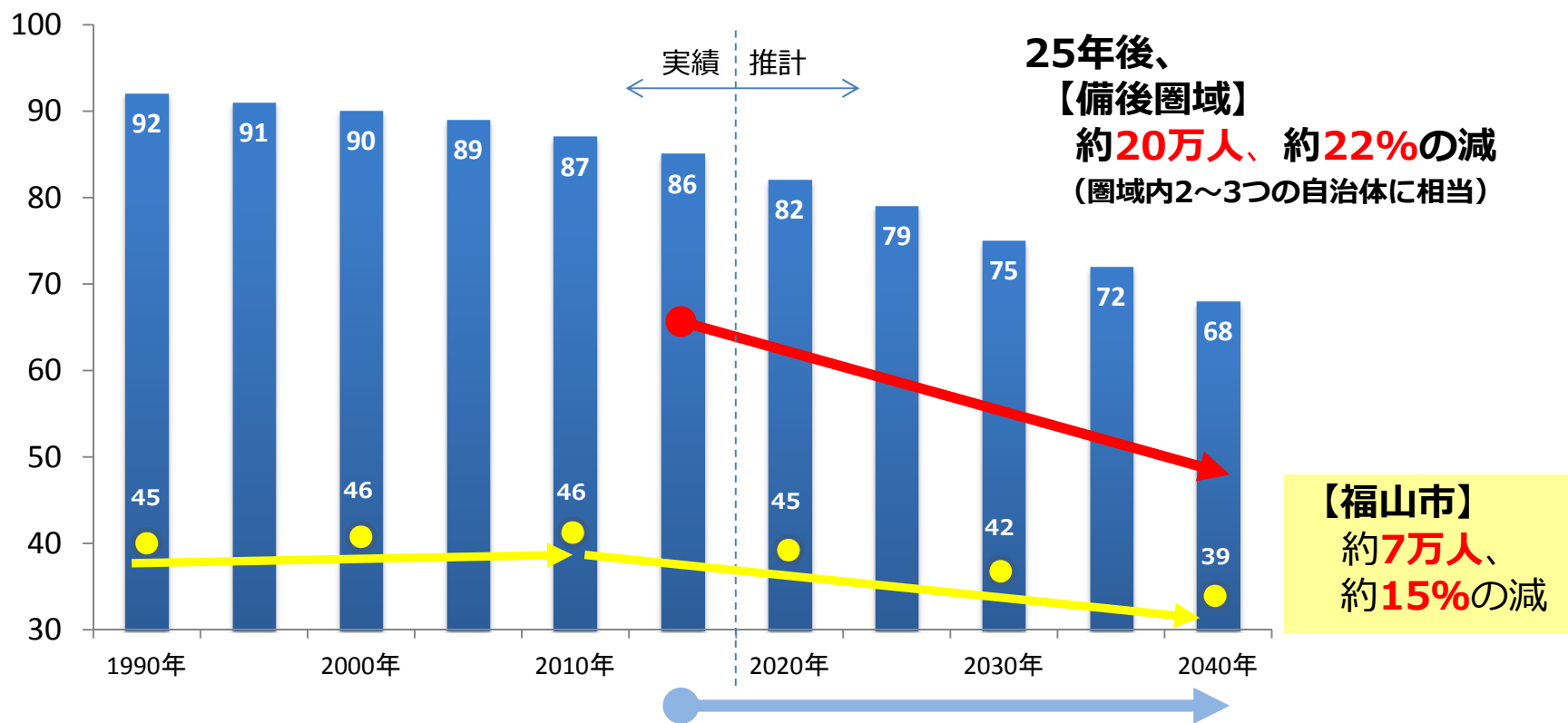
1 備後圏域の位置



2 地方における人口減少の実態

地方の人口減少は深刻さを増す

- ・全国 16.2%減 ↘
- ・広島県 16.4%減 ↘
- ・岡山県 17.2%減 ↘

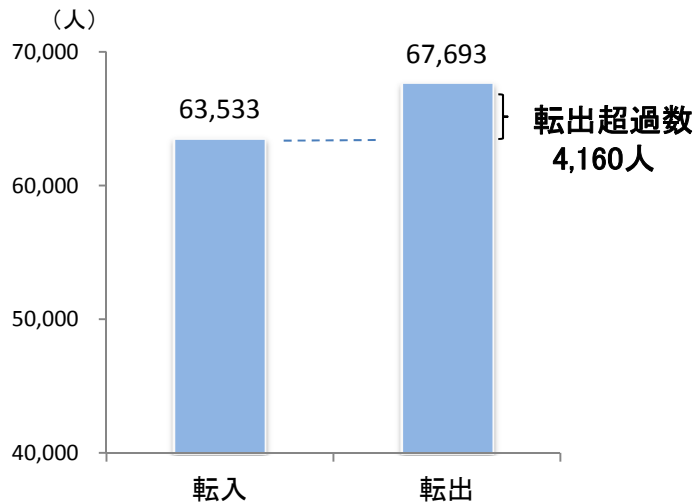


(資料) 総務省「国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

備後圏域における社会動態

2005年（平成17年）から
2010年（平成22年）かけての5年間の動き

■ 圏域全体の転出入数
(2005年調査時の常住地からの移動状況)



(資料) 総務省「平成22年国勢調査」

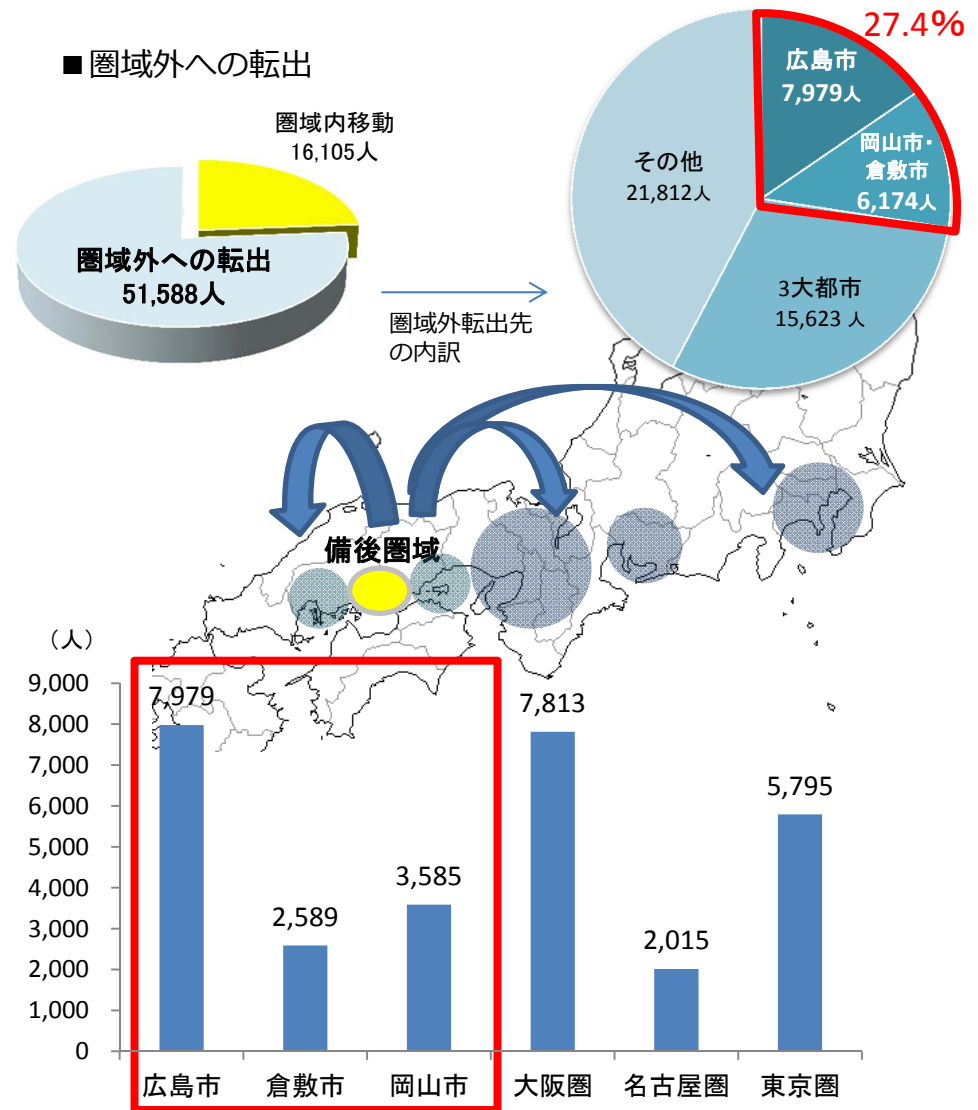
【本圏域の転出の特徴】

Point

備後圏域外への転出については、3大都市への転出も多いが、近隣の指定都市等への転出も多い。

→ 転出全体の27.4%

■ 圏域外への転出



3 人口減少が地方に及ぼす影響

①人口構造の変化による地域社会への影響

- ・年少人口、生産年齢人口の減と高齢者の増加

②地域経済の成長力の低下

- ・労働力不足（労働供給の低下）によるイノベーション創出の妨げ

③税収等の減少

- ・課税対象者の減、産業構造の変化

④社会基盤、生活基盤の脆弱化

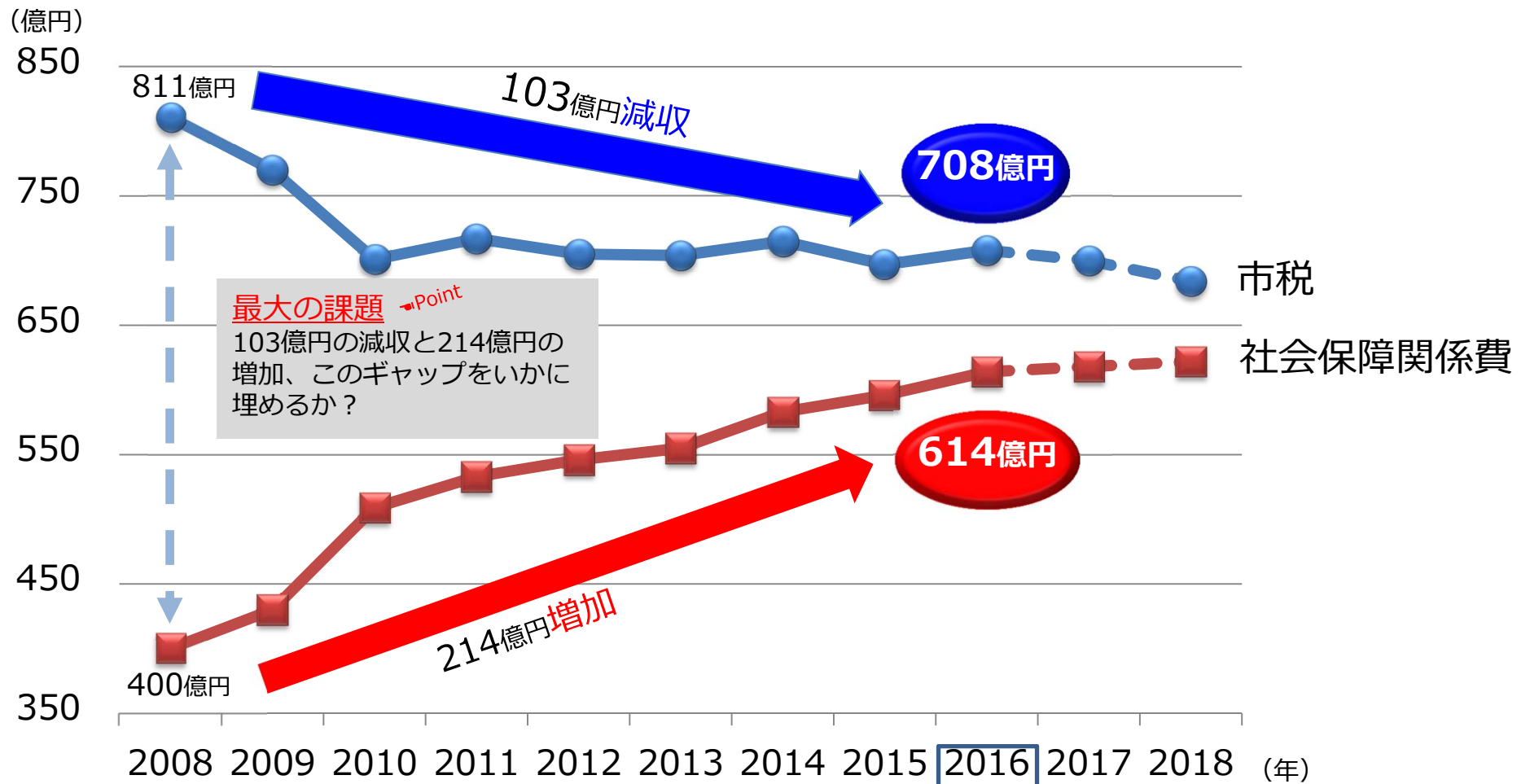
- ・地域の利便性の低下、公共交通の問題



多くの住民は普段の生活で人口減少をリアルに感じていない
〈住民との危機意識の共有が必要〉

4 連携中枢都市の状況

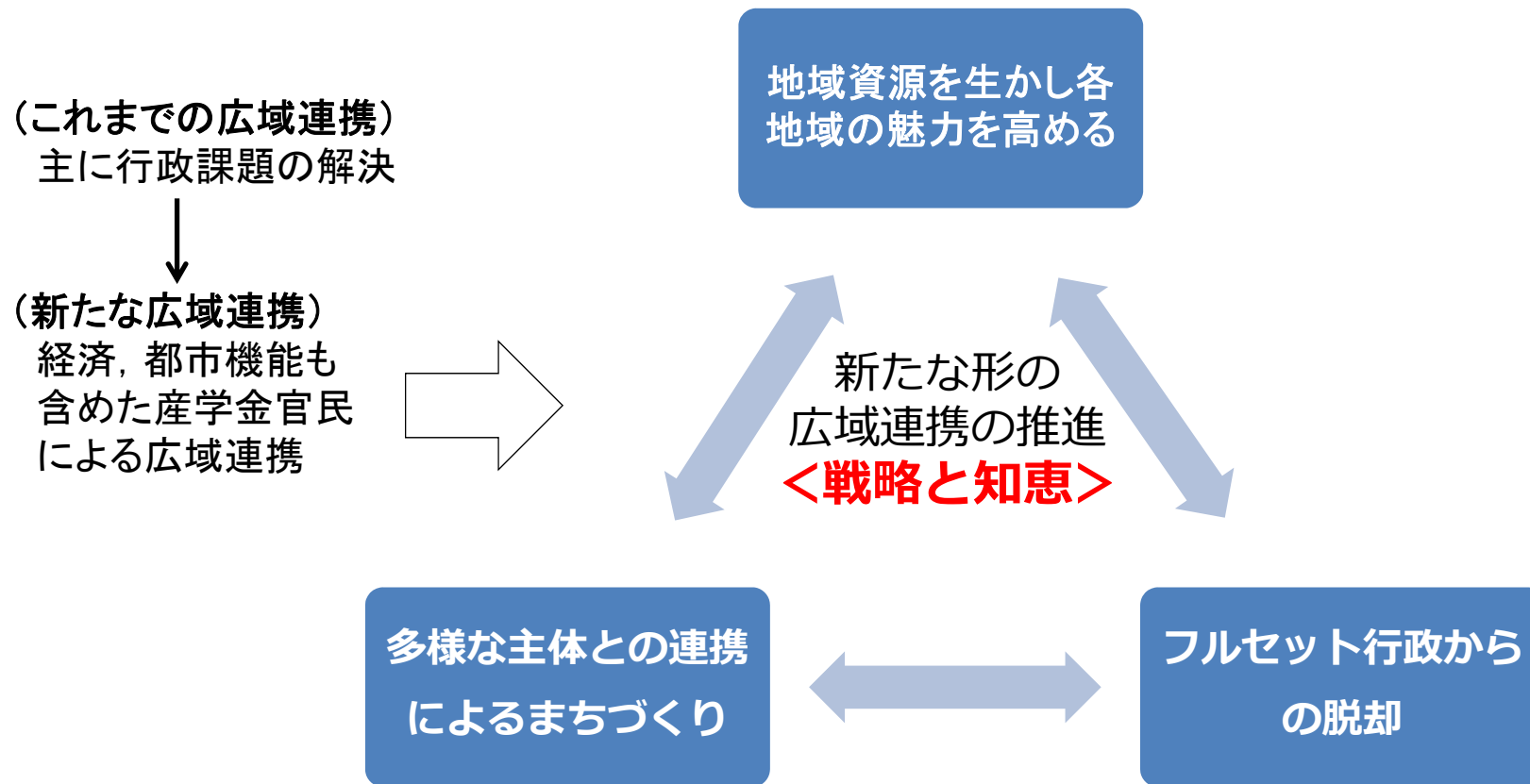
福山市の税金と社会保障関係費の推移・推計



(資料) 福山市

5 「戦略と知恵」の時代

- これまで通りのやり方では通用しない
- 今後、「発展する地域」と「衰退する地域」がより鮮明になる



6 圏域設定の理由

圏域設定の背景(歴史・経済・日常生活圏)

■人口 85.7万人 ■面積 2,509 km²

■地域特性 県境を越えて都市圏を形成、また東西ともに別の圏域と重なっている

備後国として一体だったが、明治4年の廃藩置県で分断される(太実線より西側が広島県)

江戸時代以前 備後国

江戸時代 福山藩

明治4年 福山県
深津県
(県庁所在地：福山市)

明治5年 小田県
(県庁所在地：笠岡市)

明治8年 岡山県

↓ 備後6郡が広島県に移管

明治9年 広島県 (現在の福山市、尾道市の一部、府中市、神石高原町)



7 備後圏域における広域連携の経緯

- 1964年 9月 備後地区工業整備特別地域に指定
- 1965年 2月 日本鋼管（NKK）福山製鉄所 開設
- 1994年 4月 福山・府中広域行政事務組合（～2008年）
- 1998年 4月 中核市へ移行（福山市）
- 2011年 12月 **備後圏域連携協議会の設立**
- 2012年 7月 **防災協定の締結**
- 2012年 11月 **こども発達支援センターの共同運営を開始**
- 2013年 共同事務の検討に向けた協議開始
- 2014年 4月 **連携中枢都市圏構想の提示（総務省）**
- 2014年 5月 モデル構築事業への応募
- 2014年 6月 **モデル団体として採択**
- 2015年 2月 連携中枢都市宣言
- 2015年 3月 連携協約締結、びんご圏域ビジョン公表
- 2015年 4月 連携事業スタート

人口減少社会の到来
を見据え、広域的な
課題の解決に着手

方向性が一致

備後圏域 連携中枢都市圏の概要

連携中枢都市の役割、各市町の特徴、推進体制 など

8 福山市（連携中枢都市）の責任と役割

「攻め」と「調整」の機能を担う

- 圏域内の各地域のポテンシャルの洗い出しと結び付け
- 圏域の人口流出の抑制（人口のダム機能）
- 政策形成能力の向上（自治体職員の資質向上）

■ 福山市の合計特殊出生率

保健所・市区町村別統計 (2008~2012)	1.71	1位
----------------------------	-------------	-----------

合計特殊出生率は
国の目標値（1.80）に近い。

2014年は **1.70**

長年にわたって
高い数値を維持している。

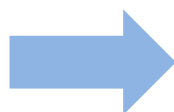
※備後圏域の合計特殊出生率
2008~2012年 **1.59**

■ 福山市の人口比率の現状

項目 (2014年3月末)	比率	中核市での順位
年少人口比率	14.2%	11位
生産年齢人口比率	60.8%	33位
老年人口比率	25.0%	19位

福山市における合計特殊出生率の推移

2010年	2011年	2012年	2013年
1.62	1.70	1.60	1.73



なぜ？

合計特殊出生率が高く、年少人口が多いのに、
どうして「**生産年齢人口**」が少なくなるのか？

9 福山市（連携中枢都市）の現状分析から見えるもの

- ① 合計特殊出生率が高い・年少人口比率が高い ⇒ 子どもを産み育てやすい環境（保育行政の充実など）
有配偶率の高さ、多子世帯の多さ
- ② 生産年齢人口比率が低い ⇒ 10～30代の転出超過が多い（特に20代前半の女性）
→進学や就職（進学先、就職ミスマッチなど）
→結婚、就職を理由とする転入数が減っている（都市の魅力？）
- ③ 老年人口比率が高い ⇒ 高齢者施設の多さ：小規模多機能型は中核市で1位（15.23施設/1号被保険者1,000人当たり）＝老後の楽園と紹介

課題

20代前半の女性の人口流出の抑制

圏域の要として、
どのような機能が必要か？

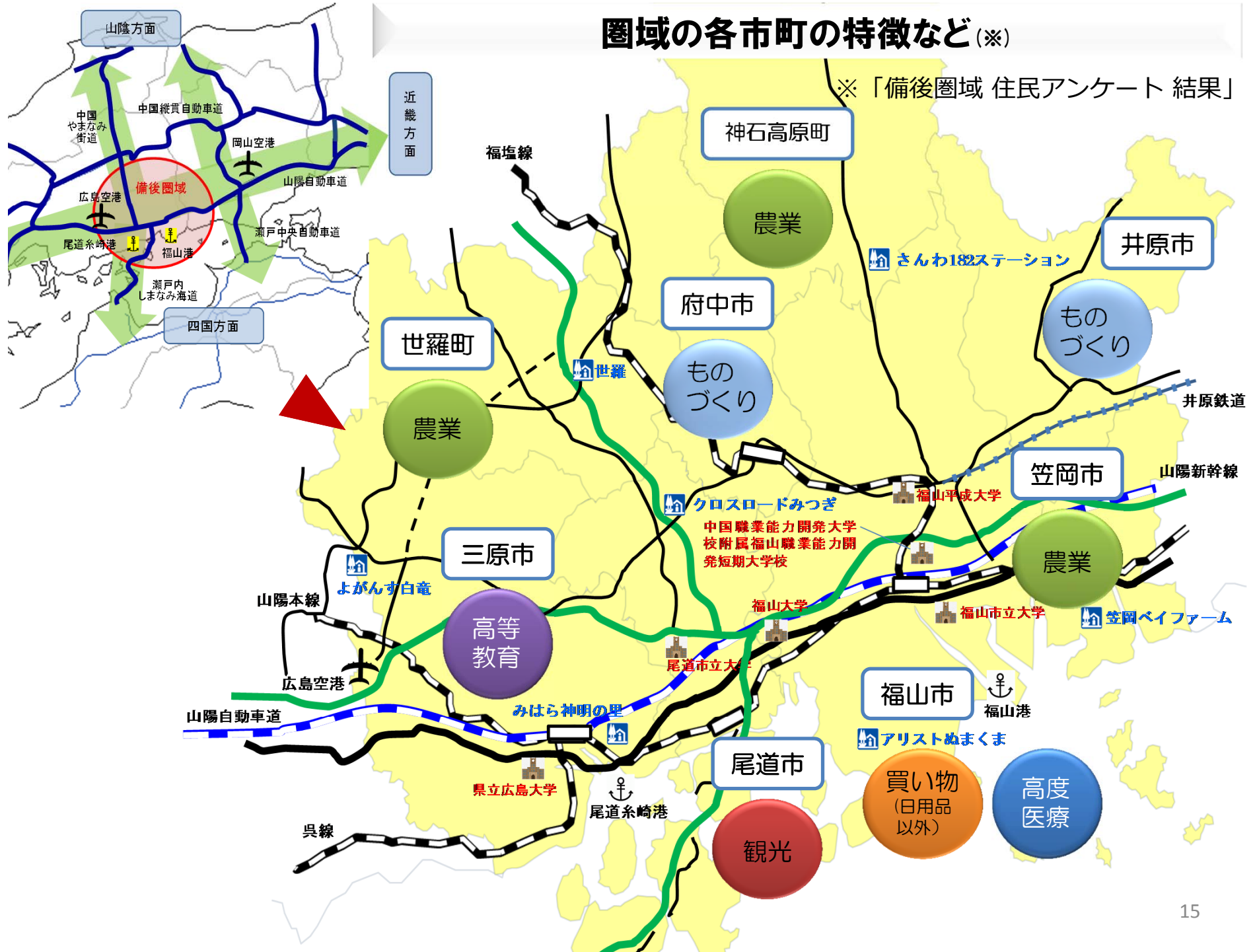
- ・雇用の場の確保
- ・若者にも魅力あるまちづくり

将来像

豊かさが実感でき、いつまでも住み続けたい備後圏域

圏域の各市町の特徴など(※)

※「備後圏域 住民アンケート 結果」



10 連携中枢都市圏形成までの経過（詳細）

2014年

- 3月 2013年度第2回備後圏域連携協議会（モデル構築事業の研究について）
- 4月 備後圏域連携協議会幹事会（1月までに10回開催）
- 5月 国のモデル構築事業へ応募
- 6月 モデル団体として採択
- 8月 第1回びんご圏域活性化戦略会議の開催（2月までに3回開催）
- 9月 特別講演会の開催（講師：増田寛也 教授）

倉敷市（高梁川流域連携中枢都市圏）とは常に情報交換し、互いに連携。

- ビジョン策定に向けた業者委託、アンケート調査実施
- 10月 副市長・副町長会議（財源措置、連携事業案について）
※総務省と事業費についてのやりとり

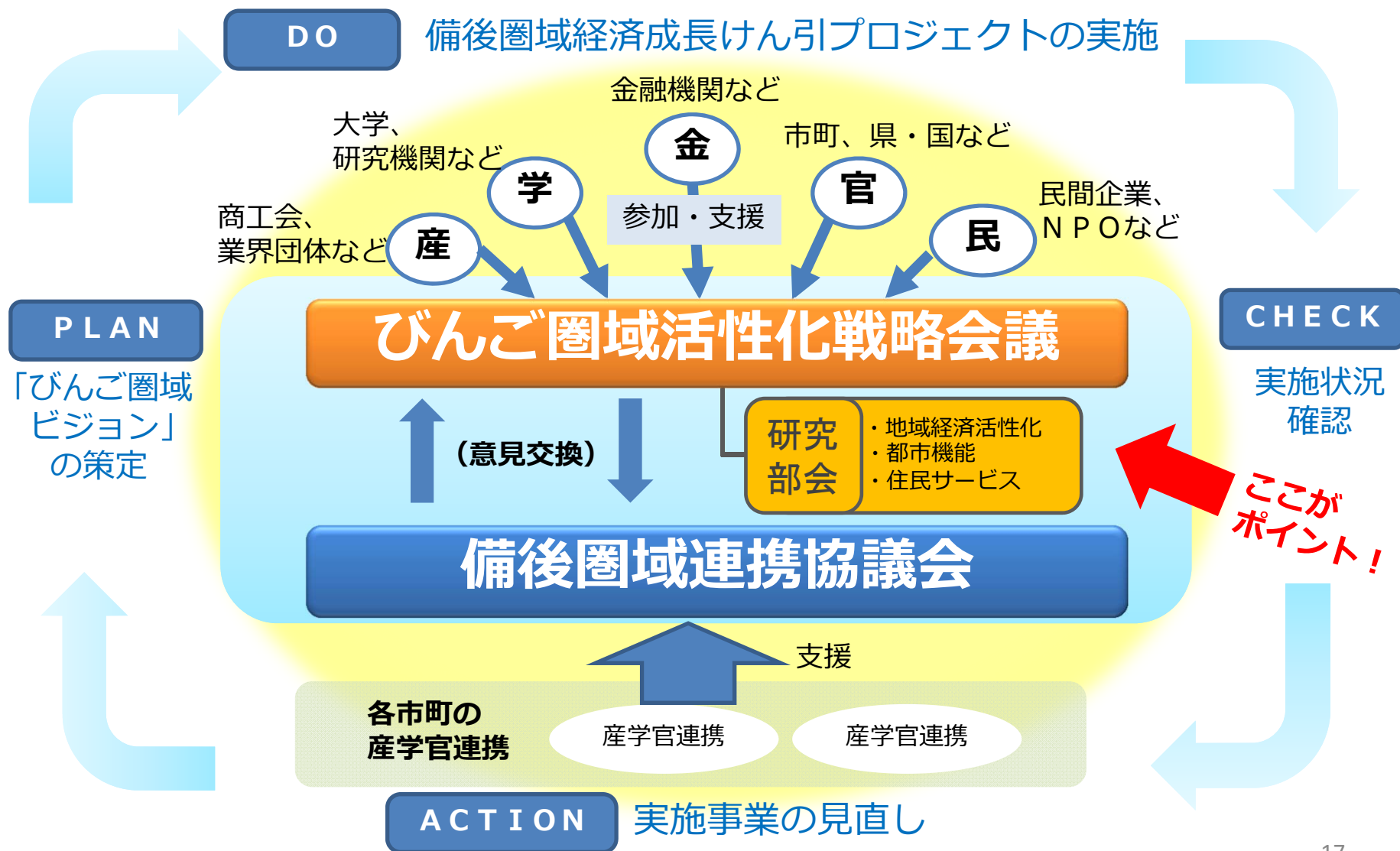
- 11月 部会の開催（地域経済活性化・都市機能・住民サービス）

→1月までにそれぞれの部会を全3回実施

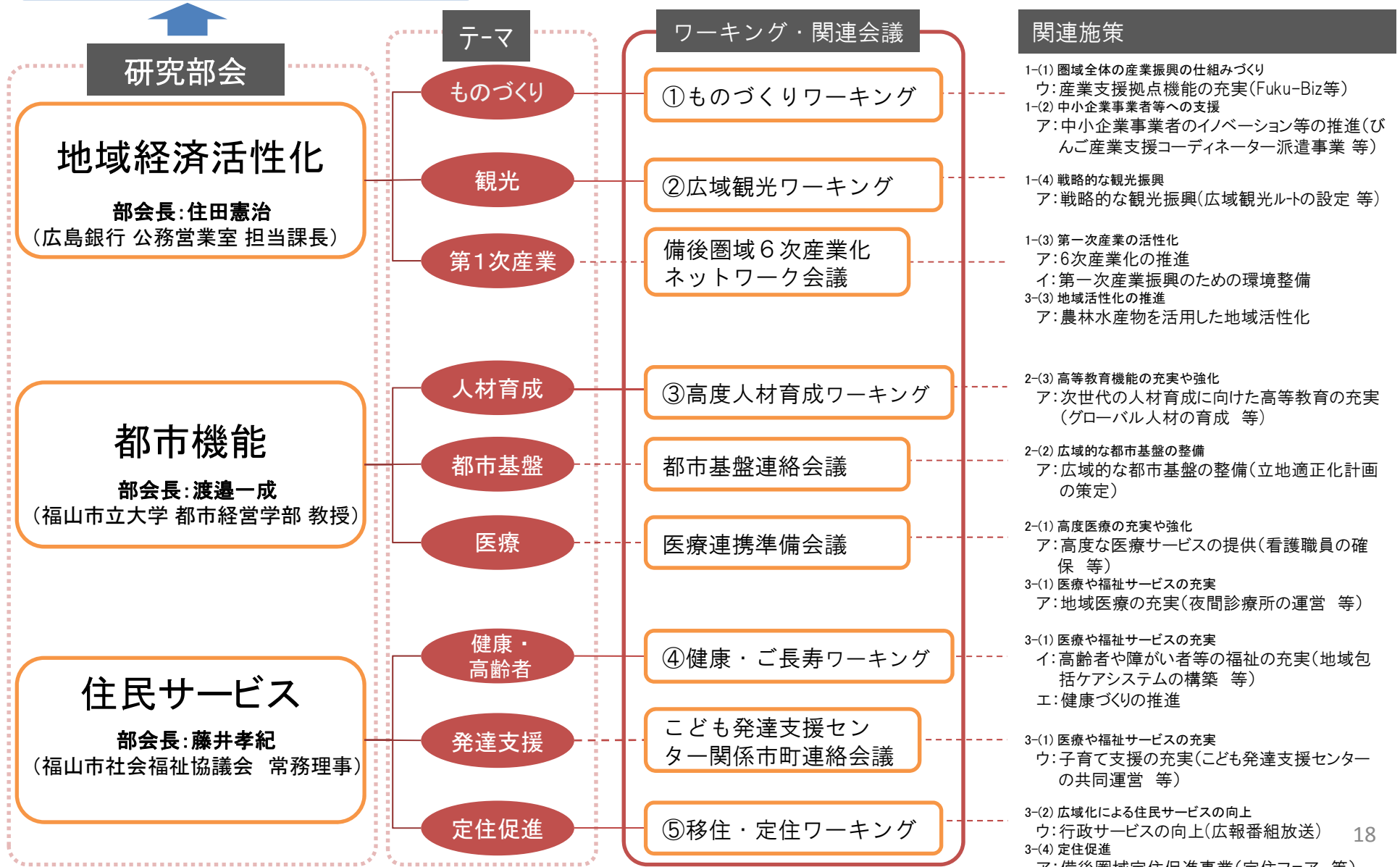
2015年

- 1月 びんご圏域ビジョン素案パブリックコメント（89件の意見提出有）
- 2月 **連携中枢都市宣言**（定例会 初日の本会議、施政方針の前段で宣言）
 - ・連携中枢都市圏形成に係る連携協約（7件）を上程
 - ・常任委員会（総務委員会）で連携協約とビジョン案について報告・説明
- 3月 **連携協約議決**（各市議会・町議会でも同様の動き）
備後圏域の6市2町で全国のトップをきって**連携協約を締結**
びんご圏域ビジョン公表

11 びんご圏域ビジョンの推進体制



びんご圏域活性化戦略会議
(事務局 福山市企画政策課)



※①～⑤以外は、行政主体の会議

12 PDCAサイクル

1 目的

びんご圏域ビジョンに基づく事業について検証を行い、より事業効果を高めるため、産学金官民によるPDCAサイクルを構築する。

2 対象事業

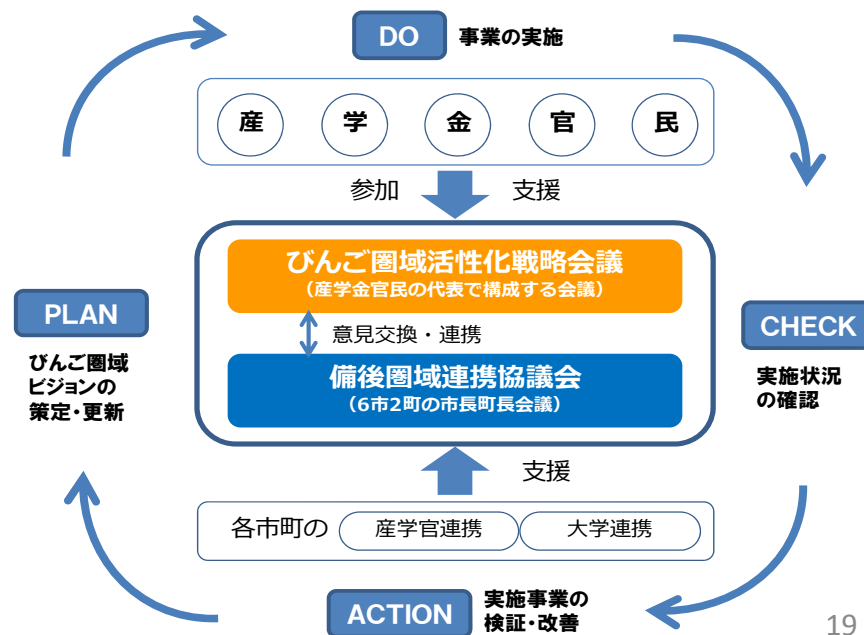
びんご圏域ビジョンに基づく連携事業

3 実施時期

年1回（11月頃までに前年度事業について実施）

4 実施の流れ

- ①事務局
- ②びんご圏域活性化戦略会議
研究部会 → 活性化戦略会議
- ③備後圏域連携協議会



13 スケジュール

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
取組事項→	事業計画の報告	連携事業の進捗管理 新年度事業の検討	新年度事業の検討 連携事業の評価	ビジョンの更新
びんご圏域 活性化戦略 会議	■ 戦略会議 (6月) ・今年度の事業計画等		■ 戦略会議 (11月) ・新年度事業 ・事業評価 等	■ 戦略会議 (2月) ・ビジョン更新 等
研究部会		■ 研究部会(8～9月) ・ワーキング報告 等	■ 研究部会(10月) ・事業評価	
ワーキング	各ワーキング等の開催 (随時 年3回程度) ・事業実施状況の共有、新事業構築 等			
備後圏域 連携協議会	■ 協議会 (5月) ・今年度の事業計画等	■ 協議会 (7月) ・進捗報告等	■ 協議会 (10月) ・新年度事業 等	■ 協議会 (1月) ・ビジョン更新 等
幹事会 (企画部門の課長)	幹事会 (年5回程度 協議会開催前等) ・今年度の事業計画、事業実施状況の共有、新事業構築 等			
連絡会議 (担当者)	連絡会議 (随時) ・事業構築 等			

14 連携協約について

○分かりやすさ（形式、内容、議決）



◆協約文の検討の際に議論となった点

- ・ 議会の議決を意識（各市町が連携するにあたって、判断に悩まないものに）
- ・ 読みやすく、分かりやすい形式であること
- ・ 既に締結している事務委託の確認
- ・ 失効の条文を入れるかどうか など

◆連携協約で苦労した点

- ・ 別表の各項目のバランスや微妙な表現（役割分担・費用分担の表現も含む）
- ・ 失効の規定について、協約に盛り込んだ場合の地方自治法第96条第2項に基づく、条例との関わりについて
- ・ 他圏域と重なる市町への対応（他圏域と進捗や考え方を合わす）
- ・ 議会への説明（各市町との連携、ビジョンとの関わりなど）

福山市と〇〇市（町）との間における連携中枢都市圏形成に係る連携協約

福山市及び〇〇市（町）は、連携中枢都市圏を形成するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の2第1項の規定に基づき、次のとおり連携協約を締結する。

（目的）

第1条 この連携協約は、福山市及び〇〇市（町）が、福山市及び〇〇市（町）の区域における事務を協力して処理することにより、福山市、三原市、尾道市、府中市、世羅町、神石高原町、笠岡市及び井原市の区域で構成される圏域（以下「圏域」という。）全体の経済成長をけん引するとともに、住民が安心して豊かな暮らしを営むことができる圏域の形成に資することを目的とする。

（基本方針）

第2条 福山市及び〇〇市（町）は、前条に規定する目的を達成するため、別表の取組の欄に掲げる取組の区分に応じ、同表の内容の欄に定める事務を協力して実施し、相互に連携を図るものとする。

（役割分担及び費用分担）

第3条 福山市及び〇〇市（町）が実施する前条に規定する事務の役割分担及び費用分担については、別表の内容の欄に掲げる事務の区分に応じ、それぞれ同表の福山市の役割分担及び費用分担の欄及び〇〇市（町）の役割分担及び費用分担の欄に定めるとおりとする。

2 前項に定めるもののほか、福山市及び〇〇市（町）の役割分担及び費用分担に関し特に必要があると認めるときは、福山市及び〇〇市（町）が協議して定める。

（連絡会議）

第4条 福山市長及び〇〇市（町）長は、この連携協約の推進に関し連絡調整を図るため、1年に1回以上、連絡会議を開くものとする。

（失効）

第5条 福山市又は〇〇市（町）が、この連携協約の失効を求める場合は、あらかじめ地方自治法第96条第2項に基づく議会の議決を経てその旨を相手方に通告するものとする。

2 この連携協約は、前項の規定による通告があった日から起算して2年を経過した日にその効力を失うものとする。

この連携協約の締結を証するため、本協約書2通を作成し、福山市及び〇〇市（町）が記名押印の上、それぞれ各1通を保有する。

15 連携中枢都市圏構想 最初の壁



- 具体的な連携内容が不透明（取っ掛かりの部分、知らない人とは話せない）
（各市町が協力するべきかどうか判断に困る）
- 連携中枢都市と構成市町への財源措置（メリット）
- 構成市町の動機づけ（人口減少は今始まった問題ではない、何のためにするのか）
- 警戒感の払しょく（新たな合併を見据えたものではないか）



① 圏域の枠組みの設定

- ・ 圏域として違和感がないか、連携の実績、昔からのつながりの重要性

② 具体的な取組項目の提案

- ・ 福山市がたたき台を示す ⇒ 福山市の本気度を示す（プロジェクト体制）

③ 連携中枢都市の責任と役割の明確化

- ・ 各地域の特色を生かす中で、ウィン・ウィンの関係をつくる
- ・ 連携中枢都市の一人勝ちではない、むしろ負担が多いことを明確に示す

本当の壁

- ①庁内の壁
- ②企画担当課以外の壁
(構成市町も同様)



◆最初が肝心

- ・データに基づいた説明（基礎調査が重要） など

◆企画に言われたくない…

◆圏域の枠組みと既存の枠組みとの整合性

- ・微妙に違う枠組み、全く異なる枠組みの場合の対応（観光など）

◆総務省の管轄外分野 ⇒ 興味なし、端から諦めモード

- ・必要性を地道に説明（医療、福祉、経済は難易度高）
- ・医療は医療計画との関わりも課題

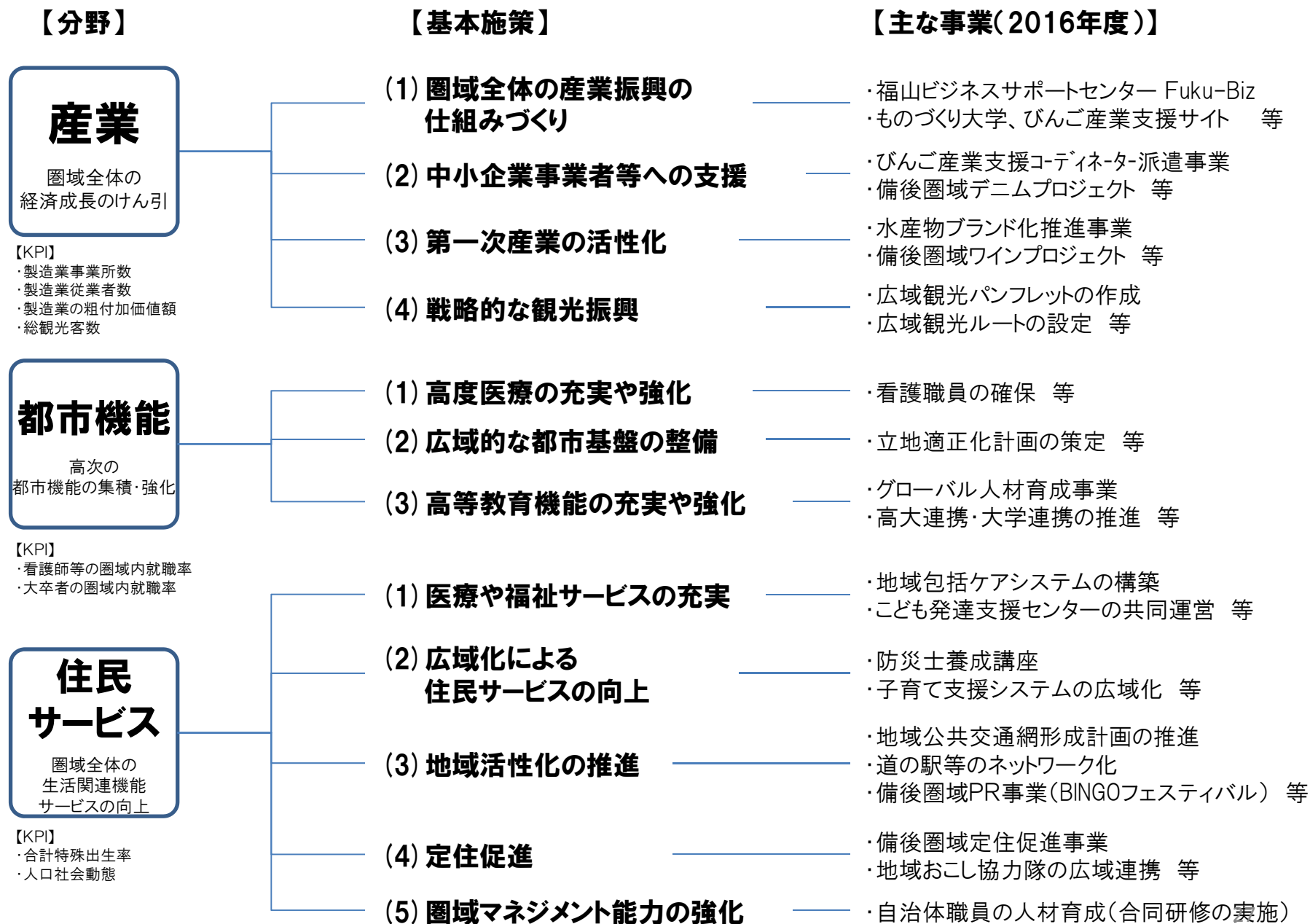
備後圏域連携事業（具体的取組）

各分野の連携事業 など

16 ロードマップ

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">体制構築</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">土台づくり</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">推進・発展・検証</p>	<p>2014年度 (平成26年度)</p>	<p>【備後圏域の更なる発展に向けた連携体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務省の新たな広域連携モデル構築事業に採択 ・連携中枢都市宣言 ・びんご圏域ビジョンの策定 ・連携協約の締結
	<p>2015年度 (平成27年度)</p>	<p>【びんご圏域ビジョンの推進に向けた“土台づくり”】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展に向けた圏域の産業構造の把握 ・圏域らしさを打ち出す糸口となる地域資源の掘り起こしと活用方法の検討 ・戦略会議の部会にワーキング会議を設置(産学金官民連携による事業の検討) ・既存事業の圏域への拡大検討 等
	<p>2016年度 (平成28年度)</p>	<p>【びんご圏域ビジョンの“推進”】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源(備後圏域らしさ)の魅力の磨き上げ、発信 ・圏域の発展を支える人材育成の充実 ・既存事業の効果的な再構築・再始動(広域化の実施 等)
	<p>2017年度 (平成29年度) ～ 2019年度 (平成31年度)</p>	<p>【推進・効果検証・再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携事業の発展的実施 ・効果検証 等

17 びんご圏域ビジョン施策体系



18 びんご圏域ビジョン推進に係る3つの視点

びんご圏域ビジョンの推進に当たり、「圏域の発展を支える人づくり(備後の人財)」「圏域共通の地域資源の活用(備後らしさの発信)」「効率的な行政サービス」の3つの横断的な視点を持ち、各分野の事業を推進する。

横断的 視点 分野	1 圏域の発展を支える 人づくり(備後の人財)	2 圏域共通の地域資源の 活用(備後らしさの発信)	3 効率的な 行政サービス
経済成長の けん引 (産業)	<ul style="list-style-type: none"> ○経営の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・びんご産業支援コーディネーターの派遣 ○女性の活躍 <ul style="list-style-type: none"> ・女性再就職セミナー等の開催 ○ものづくり産業の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり大学の開講 ○自治体マネジメント力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・産業関連表を活用できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○備後圏域デニムプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・デニム関連事業者と行政が連携したデニム産地のPR ○備後圏域ワインプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・産学金官連携によるワイン事業者の増加や備後産ワインのブランド化に向けた支援体制の構築 ○水産物ブランド化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマーク作成による情報発信の強化やアドバイザーによる支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○福山ビジネスサポートセンター Fuku-Bizの開設 <ul style="list-style-type: none"> ・専門家によるビジネスコンサルティングを通じた売上向上・創業支援
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ○医療スタッフの増 <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員再就職支援セミナー等の開催 ○次世代の人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成事業 	—	<ul style="list-style-type: none"> ○こども発達支援センターの共同運営 ○地域公共交通網形成計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・福山市及び笠岡市が連携して一つの計画を策定
住民サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人養成講座の開催 ・介護関連職員の各種研修の実施 ○子育て支援(発達支援)の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・支援者(保健師・保育士等)の合同研修の実施(ことばの相談室) ○まちづくり人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・防災士養成講座の開催 ・地域おこし協力隊の広域連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅等のネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリーの開催や新メニュー開発等 ○備後圏域PR事業 <ul style="list-style-type: none"> ～BINGOフェスティバル～ ・備後圏域の特産品や活動等を圏域内外にPRするイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケアシステムの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携や金融機関との連携事業等を実施

主な連携事業

備後圏域産業連関表の作成・活用



○備後圏域産業連関表の作成

・事業所アンケート(4,842社)、消費動向調査(4,500世帯)等を通じて作成

○備後圏域における産業構造の分析

・基幹産業の抽出(鉄鋼、繊維製品、運輸などの7産業)

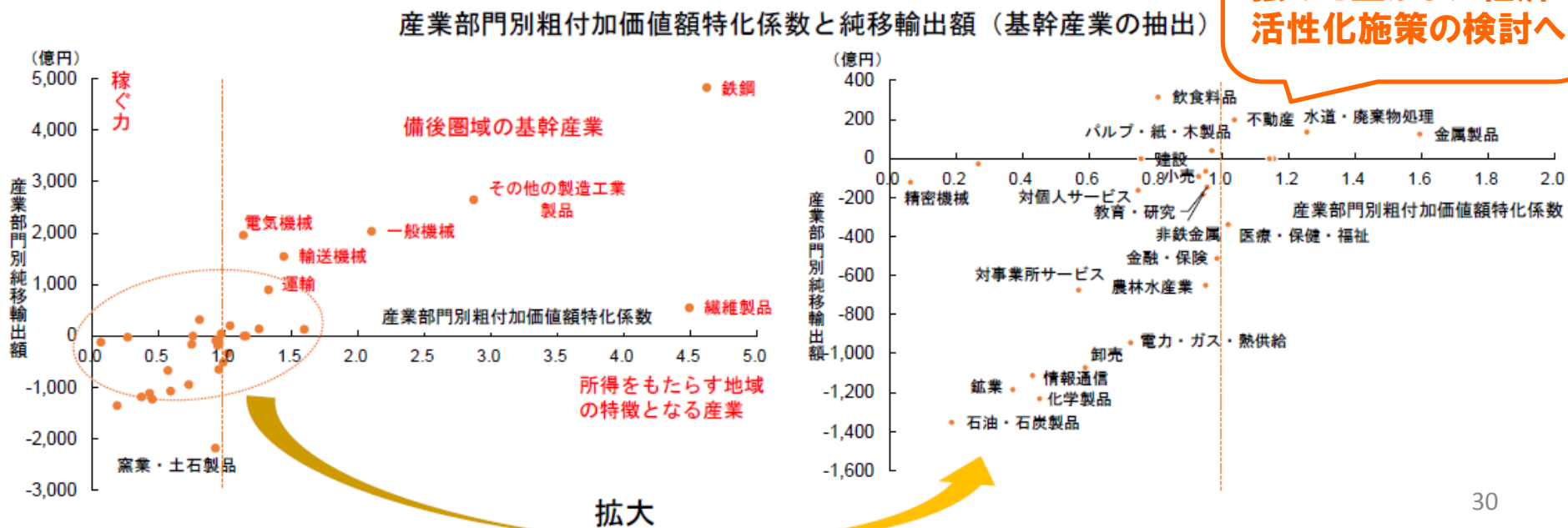
○産業連関表の活用に向けた勉強会の開催

・備後圏域構成市町の企画部門、産業部門の職員を対象とした勉強会(年4回)

○経済波及効果算出システムの作成

・産業界や大学等における活用を促進するためのシステムを作成中

**備後圏域の
産業構造を把握し
強みを生かした経済
活性化施策の検討へ**

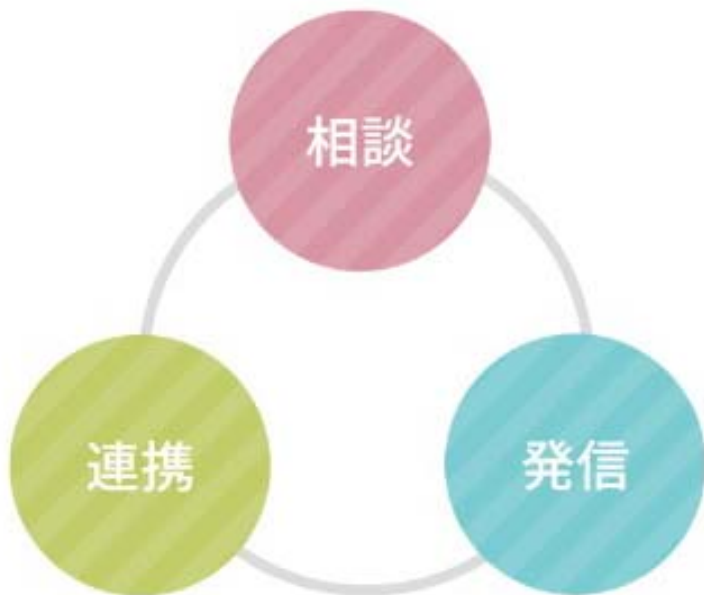


圏域全体の経済成長のけん引：圏域全体の産業振興の仕組みづくり

福山ビジネスサポートセンター-Fuku-Biz



- 売上向上、創業支援に重点を置いた、備後圏域の産業支援機関
- 質の高いマーケティング、デザイン、販路開拓、プロモーション、ブランディングなどを一貫して提案
- 2016年12月6日OPEN



相談

さまざまな課題を抱える人や企業の挑戦はばたきの場

連携

他の公的支援機関と連携したトータルサポート窓口

発信

人と情報の集積をはかり、交流や連携を生み出す拠点



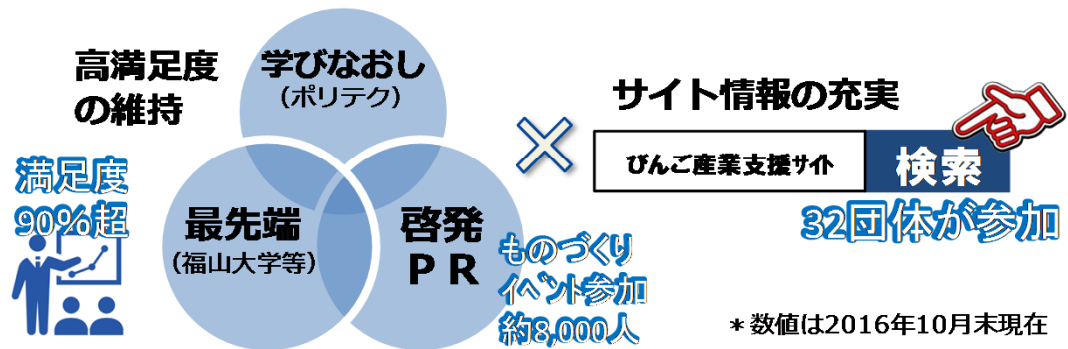
ものづくり大学・びんご産業支援サイト



- 地元大学等と連携したセミナーを開催する「ものづくり大学」の開校・運営
- 圏域内の支援機関が行うセミナー情報を一元化した「びんご産業支援サイト」の開設・運営

○ものづくり大学/びんご産業支援サイトの充実

- ・参加者意見を踏まえたセミナー
- ・講座内容の検討・実施
- ・産業支援サイト情報の充実等によるPR強化

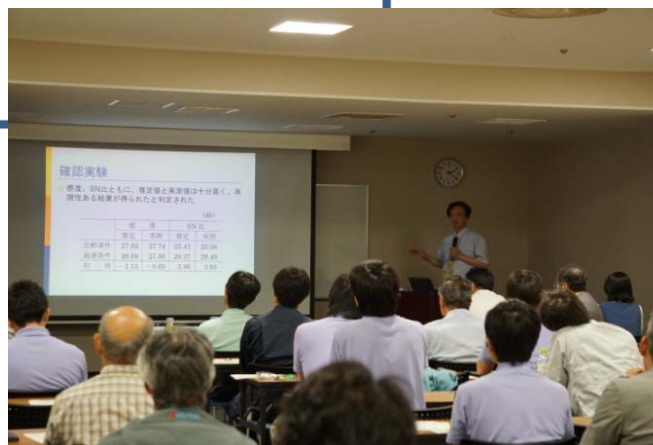


* 数値は2016年10月末現在

ポイント

- ! 学びなおしや最先端など 事業者ニーズに沿ったプログラム
- ! セミナー情報の一元化 分野別検索などの利便性向上
- ! 産学官連携による人材育成

- 事業承継に係る関係機関の連携強化
- Fuku-Bizとの連携による創業支援



地域資源の活用・発信



地域資源	期待する効果
<p>デニムプロジェクト</p>	<p>備後圏域に集積している世界が認めるデニム関連企業を一体的に発信することで、「デニム産地」としての備後圏域の知名度向上及び関連企業の販路拡大等へつなげていく。なお、デニム産業(繊維)は、備後圏域の基幹産業の一つであるため、高い経済波及効果が期待できる。</p> <p style="text-align: right;">【基幹産業の強化(繊維産業:圏域の基幹産業の一つ)】</p>
<p>ワインプロジェクト</p>	<p>農産物の加工品であるワインやリキュールを通じた地域活性化をめざして、関連事業者を増やすための支援体制の構築や、情報発信の強化等を行っていく。また、備後産ワインやリキュールのブランド価値を高め、観光資源としての活用もめざす。</p> <p style="text-align: center;">※備後ワイン・リキュール特区の活用(県境を越えた特区は全国初)</p> <p style="text-align: right;">【第一次産業の活性化】</p>
<p>水産物のブランド化</p>	<p>瀬戸内の地魚を対象に、名称の決定(備後フィッシュ)、ロゴマーク及びPRグッズ等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備後の地魚応援団(推進団体)の設立 ・PR活動の実施(備後フィッシュフェス等) <p style="text-align: right;">【第一次産業の活性化】</p>



備後の漁師
1000人が選ぶ
魚たち。

こども発達支援センターの共同運営

1 事業概要

- ・発達に課題がある子どもが数多く報告される中、備後圏域では支援可能な専門機関が不足していた。
- ・圏域の共通課題を解決するため、6市2町が共同で運営する「こども発達支援センター」を設置。
- ・就学前の発達が気になる子どもを対象に、保育所や医療機関等と連携した相談や診察、訓練などの支援を行う。
- ・センター利用後も保護者や子どもが各市町で継続的に支援を受けられるよう、今後の方針等を市町間で共有する体制を整備。
- ・事業費については、6市2町で利用者割合をもとに負担。

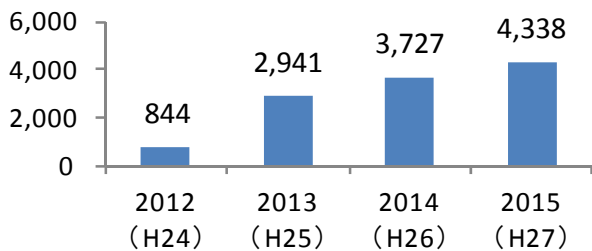
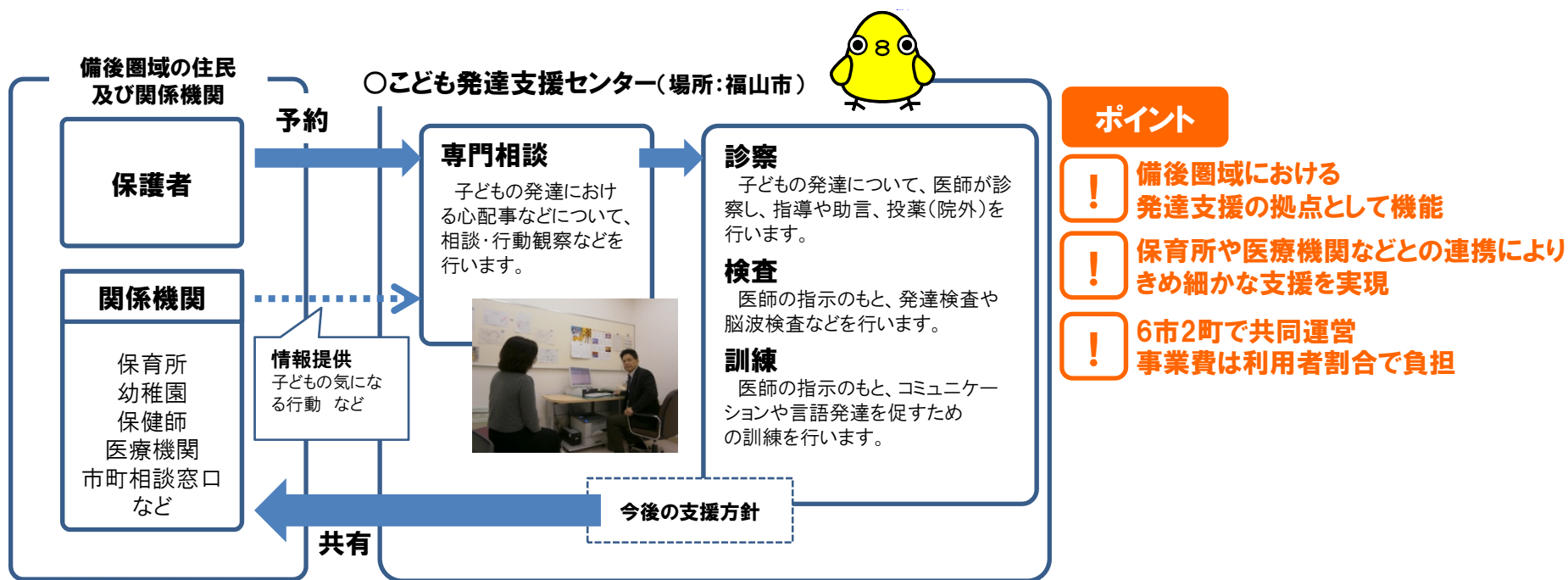


図 こども発達センター利用件数

その他 連携事業



○看護職員再就職支援セミナー

- ・結婚や妊娠等によって離職した看護職員の再就職を支援

○グローバル人材の育成

- ・国際社会で活躍できる人材を育成するため、備後圏域内企業の海外事務所を活用し、国際経営理論やケーススタディを通じた学習を行う。

○地域包括ケアシステムの構築

- ・介護や医療の連携を進めるほか、関連事業者の合同研修や市民団体等の活動を報告するチャレンジフォーラム等を開催。

○備後圏域PR事業

～BINGOフェスティバル～

- ・備後圏域の知名度を向上するとともに、圏域住民や事業者等の一体感を醸成するため、圏域の特産品やゆるキャラ等でPRするイベントを開催。
- ・開催にあたっては事業効果を高めるため、各市町の既存イベントと連携して開催。
- ・市町持ち回り開催とする。（第1回は福山市開催）



など

19 実施段階での留意事項

■ 市町間の調整

- ・各市町の強みを生かした連携

■ 民間企業等との調整

- ・スピード感ある連携へ

■ 連携事業の考え方

- ・連携事業に係る費用
- ・ビルド&ビルドにならないように

など

20 連携事業を実施して得たもの

★単独自治体では実施が難しい事業の実現

- ・ 共通課題の解決に関する事業
- ・ 人材育成、情報発信 など

★スケールメリット

- ・ 注目度の高さ など

★行政課題の解決からまちづくり全般へ

- ・ 連携の深化

今後について

21 備後圏域全体の課題と解決の方向性

■ 事業効果の見える化・事業の再構築

連携事業の効果は何か

■ 他の地域でも困難な事業、解決の糸口が見えにくい事業

医療提供体制の確保 など

■ 圏域の知名度の低さの解消

事業と情報発信は両輪

■ 市町との連携の仕方

役割分担 など

■ 民間企業等の連携の在り方

民間企業との役割分担 など

■ 事業優先順位の決定

地方創生？連携中枢都市圏構想？柱となる事業は？

そのほか留意する点

◆びんご圏域活性化戦略会議（産学金官民の連携）の運営

- ・会議の活性化

◆県との連携（権限委譲との関わり）

- ・県からの支援、役割

◆情報発信のあり方

- ・住民への周知（住民の評価）

◆構成市町・各議会との関わり

- ・情報の共有、予算編成時期の違い、予算案の取り扱いなど

◆他圏域と重複する自治体への対応（ビジョン・協約）

◆総合戦略との関係

- ・福山市総合戦略は、連携中枢都市圏構想の一部。前半（第1章～第4章）を「広域編 びんご圏域ビジョン」とし、後半（第5章～第6章）を「福山市編 戦略と具体的取組」としている。



【問い合わせ先】

福山市企画財政局企画政策部企画政策課

電話：084-928-1012

e-mail：kikaku@city.fukuyama.hiroshima.jp